

第3章ー3 Bブロックの研究のまとめ

Bブロック

大阪市立東小橋小学校（公立）・大阪市立東小橋幼稚園（公立）

大阪市立東小橋保育所（公立）・社会福祉法人江育会キッズファースト保育園（私立）

【ブロックテーマ】

「豊かな遊びや学びの中から主体的に取り組み、探求・探究する子どもを育てる

～発達段階を踏まえた学びのバトンをつなぐ架け橋プログラムをそうぞうする～」

【指導助言】 大阪教育大学 佐久間 敦史 准教授

1 研究の方法

(1) ブロックの現状と課題

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、感染拡大前は各園所校でそれぞれに行っていた交流活動が一切行えていなかった。また、教職員の異動に伴い、その経過が受け継がれていきにくい状況の中、研究事業を開始することとなった。

課題としては、Bブロック内の就学前3施設は、東小橋小学校の入学児童が少なく、交流を行ったことが連携・接続につながらないのではないかとということ。また、オンライン配信での交流も検討したが、ネット環境の関係で実施が難しいことが考えられた。

今回、保幼小連携・接続研究を受け、ブロックメンバーで集まる機会をチャンスとし、今後は感染症拡大前まで行っていた交流を再開し、互いの行事を確認し共有し合う中で、普段から無理なく楽しく交流できるように、小学校を中心としながら互いの状況を発信していくこととした。

(2) テーマ設定の理由

研究当初は、感染症拡大に伴い一度途切れていた交流を再開していくために、まずは「子どもだけでなく職員も互いを知ろう！仲良くなろう！」を最初の目標とした。「交流のための交流を」ではなく、互いの施設の状況を把握する中で、「無理なく自然に楽しいことをしよう」と連携・接続のあり方について協議を深めていった。また、スタートカリキュラムの作成を考えていたが、指導講師から助言をいただきながら研究を進めていく中で、目指すものが明確になっていき、テーマを再考していった。テーマの中の「たんきゅう」は、敢えて二つの漢字を使用し、外に求める「探求心」と内に向けて突き詰めていく「探究心」のどちらも子どもに育ってほしいとの思いを表現した。サブテーマはいろいろな意味の、「そうぞう」があることを表現し、ひらがなの「そうぞう」とした。また、Bブロックの架け橋プログラムを保育や授業を振り返りながら作成することとした。

(3) 取組内容

就学前施設と小学校との違いや共通点を子どもたち自身が感じられるように、意識をもって交流することを念頭に置き、以下に取り組んだ。

- ・自然な関わりからの交流を心がけ、日ごろから各施設の状況を互いに発信（東小橋公園に集合し交流、就学前施設での屋外や室内においての交流遊びなど）
- ・就学前施設による小学校の校庭や校内の空き時間の利用（例えば、校庭での鬼ごっこやリレー・学校探検・授業見学、校庭で遊んでいる幼児の姿から、「こんなことしたい」という思いを児童から引き出すなど）
- ・プール見学や避難訓練（小学校へ避難する実施訓練）を実施、わくわく交流など、従来から行っていた交流活動を再開
- ・健康委員会の児童による保健指導、各施設の作品展鑑賞など新たな取組
- ・交流活動、研究授業、研究保育を実施
- ・架け橋プログラムの作成

(4) 取組計画

R 4 年度		R 5 年度	
4 月		4 月	小学校授業見学 担当者会議
5 月	全体会・顔合わせ	5 月	学校案内 体育実技研修「マット運動」
6 月	小学校施設見学・授業参観 キッズファースト保育園との交流	6 月	水遊び交流
7 月	学習会(連携と接続について) 職員交流会、講演会	7 月	水遊び交流の振り返り、職員交流 講演会「これからの保育について」 保育所見学(小学校教諭対象)
8 月		8 月	就学前施設プール交流
9 月	担当者会議	9 月	担当者会議
10 月	東小橋小学校(1年)生活科研究授業「アサガオの種をどうするか」 研修会 ・幼稚園での栽培活動の実践記録 ・カリキュラムを見合う 就学前施設交流(運動会) ・演技を見せ合う・リレー	10 月	就学前施設交流(運動会) ・演技を見せ合う ・小学校に運動会の取組を見に行く 秋見つけ交流 体育実技研修「跳び箱」
11 月	東小橋保育所 研究保育「お店屋さんごっこ」 東小橋小学校健康委員会との交流 ・心を落ち着かせる呼吸法 ・心の天気 東小橋小学校作品展見学 ・5歳児 作品展示 ・全園児 作品鑑賞 東小橋幼稚園 保健指導参観 「三色栄養について」	11 月	みんなで見つけた秋で遊ぼう交流 「保幼小連携・接続研究報告会」 ・研究報告 ・グループディスカッション ・指導講評
12 月	東小橋幼稚園研究保育 「森のレストラン」「孫悟空ごっこ」「つくって遊ぶ」 担当者会議、職員交流会	12 月	東小橋幼稚園作品展鑑賞 東小橋小学校 SDGs 活動での交流(4年) 研究冊子まとめ
1 月 ～	カリキュラム作成開始	1 月	お正月遊び交流(1年) 東小橋小学校「わくわく交流」 (1年) カンファレンス
1 月	東小橋小学校「わくわく交流」(1年) キッズファースト保育園との交流		
2 月	就学前施設交流「ドッジボール」 職員交流会	2 月	就学前施設交流「ドッジボール」
3 月	担当者会議(架け橋プログラム、今年度のまとめ、次年度の年間計画)	3 月	

2 主な取組

【1年目の取組】

○東小橋小学校の生活科の研究授業 10月

1年生が、生活科で「育てたアサガオの種をどうするか」という単元で研究授業を実施した。児童はアサガオの種を誰に渡すか、相手にどのように伝えるかなどをクラス全体で話し合い、その後、グループに分かれて活動した。

参観した就学前施設の職員は、45分の授業としての取組が就学前施設との大きな違いであると改めて気付くとともに、違った視点での話がいろいろと聞けて気付かされることも多かった。実際に見学し交流することが多くの発見につながり、連携の大切さを感じるきっかけとなった。

○東小橋保育所の研究保育 11月

5歳児クラスでは、これまでのお店屋さんごっこの経験や商店街への散歩を経て、「お店屋さんごっこがしたい」との声が上がった。つくることが好きな子どもたちが多く、「ケーキ屋さん」「レストラン」「アクセサリ屋さん」とお店が決まり、素材などを使って制作を進めていた。つくっていく中でどんどんイメージが膨らみ、子どもたちのワクワク感が広まった。最初はクラス内の活動だったが、乳児クラスの友達を招待したいとの声上がり、子どもたちが主体となって遊びを進めていく姿が見られるようになった。「案内係がいる」など、乳児クラスの友達を思いやる姿が見られ、年長児としての気持ちの成長が感じられた。取組の中で育つ「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や、小学校への学習につながるところも多くあり、就学前施設の日々の生活や遊びから、無自覚の学びがたくさん育っていることを改めて感じた。

小学校教諭から、「商店街を見学したお店屋さんの活動は、生活科での取組と重なる部分もある」、また、指導講師から「子どもたちは、やりたいことがあれば主体的に活動できる、本日の活動では子どもたちが主体的に活動する姿があった。お店屋さんごっこの商品づくりでは、小学校教師ではイメージできないこともあるので、交流する中でアイデアを伝えることができる」などの話があった。

○東小橋幼稚園の研究保育 12月

運動会や作品展、人形劇鑑賞などを経て、子どもたちが自らしたいことを見つけ、友達と関わりながら、考えたり工夫したりして遊ぶことを楽しんでいた。3～5歳児が異年齢で交流しながら作品で遊んだり、更に遊びを発展させたりしていた。小学校教諭からは、遊びが学びにつながる具体的な話も聞かれ、幼児期の遊びが小学校の学びにつながっていることが実感できた。実施園は振り返りを通して、各施設の実態に気付き、共通理解を図ることにつながった。

○就学前施設交流（運動会の遊び、ドッジボール）

10月に、小学校の教諭、指導講師が参観する中、就学前施設の子どもたちが東小橋幼稚園の園庭で、運動会で披露した演技を見せ合い、施設対抗でリレーをして交流した。他施設の友達との遊びから刺激を受け、意欲的に遊ぶ姿になった。また、前回の交流より各施設の友達への親しみを感じていた。

また3月に、東小橋保育所の所庭でドッジボール交流を行った。施設対抗戦と混合チームでの対戦をしたため、他施設の様子から刺激を受け、よりドッジボールへの意欲が高まり、以降も楽しんで遊んでいる。交流活動を継続してきたため、各施設の友達に親しみを感じている様子が見られ、一緒に遊べる嬉しさを感じているようであった。また、進学する小学校ごとに顔合わせをし、進学への期待をより高める機会となった。

○各施設職員の交流会 2月

就学前施設がそれぞれの保育実践を持ち寄り、交流会を行った。就学前施設での遊びや経験が、小学校につながることを再認識した。就学前施設間でもいろいろな保育展開があり、様々な経験があることが分かった。



東小橋小学校の公開授業



東小橋保育所の公開保育



東小橋幼稚園の公開保育



就学前施設の作品展の交流



小学校健康委員会による保健指導



就学前施設のドッジボール交流

○架け橋プログラムの作成 1月～

それぞれの就学前施設で作成した原案を持ち寄り、小学校教諭数名が参加して、1回目の架け橋プログラムの検討会を行った。小学校教諭からは「今までは、このようなものがあったとしても見ることはなかった」という率直な意見も聞かれた。それを受けて後日、小学校教諭に手に取ってもらえるための工夫も内容に含め、再度、就学前施設の担当者が集まって検討会を行った。「幼稚園と保育所の違いは出した方が良いのかな」「各施設の特徴のある活動はあった方が良いのではないかな」など、積極的に意見を出し合い、その後も話し合いを重ねた。検討の結果、就学前施設のエデュケーション・プログラムの中から、小学校の学習に直接的につながる遊びや行事などを抜粋した。また、1年目の取組から、就学前施設の活動が小学校の生活科につながる人が多いことが分かったため、小学校の生活科を中心にした内容を、架け橋プログラムに掲載することにした。誰が見てもすぐに分かりやすい形式にするように努め、小学校教諭が見て分かりにくい内容は事例集として画像を添付し、「使える」架け橋プログラムになるように工夫した。完成し、新1年生の担任からは「就学前施設での生活や学びの様子がよく分かる」という意見があった。その後、1年生の活動内容も加え、更に中身を充実させたものに改訂させていった。

【架け橋プログラム】												
保幼こ小連携・接続研究事業 Bブロック												
	6歳児の育ち											
	Ⅰ期		Ⅱ期		Ⅲ期		Ⅳ期		Ⅴ期			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生活科・教科の関連	いちねんせいになったら㉔	がっこうをたんけんしよう㉔	きれいなはなをさかせたい㉔	・プール遊び※㉔ きせつとあそぼう～はるからなつ～㉔	表現・リズム遊び㉔	あきをみつけよう㉔	みんなであそぼう㉔	跳の運動遊び㉔	しょうたいしよう㉔	きせつとあそぼう～ふゆ～㉔	もうすぐ2年生㉔	
	ねんどとなかよし㉔	鬼遊び㉔	さわってかくのきもちいい㉔	さらさらどろどろいっきもち㉔	走の運動遊び㉔	ふわふわボール㉔	ボールゲーム(ボール投げ)㉔	あそぼうよ、バクバクさん㉔	みて、さわって、かんじて㉔	ボールゲーム㉔(ボールけり)		
教科取り外組のみ	クレヨンやパスとなかよし㉔	いろいろならべて㉔	【年間を通して】 園工 季節・行事の掲示物作成等			運動会㉔	学習発表会 or作品展	終業式㉔	始業式㉔	学習参観	修了式㉔	
	【年間を通して】 ・集会活動(たてわり班)・避難訓練(火災、地震、津波、不審者対策)・保健指導(歯磨き、熱中症予防、早寝早起き朝ごはん、三色栄養、感染症予防等)											
環境構成	植物・生物	チューリップ、サクラ、シロツメグサ ダンゴムシ、アオムシ、チョウ、ザリガニ、キンギョ	ツツジ、フジ、ツクサ、タンポポ	ジャガイモ	アサガオ、ペチュニア、フウセンカズラ、ナス、ピーマン、オクラ、ミニトマト	カブトムシ、セタミ	スズムシ、バッタ	サザンカ	ナノハナ、ムスカリ、ヒヤシンス			
	用具・道具・教材等	【いろいろな遊び、生活科】 石鹸、泡だて器、ボール、おろし金、スポンジ、手作りポスト、シール、はがき用紙、スタンプ、郵便パック、すごろく、カルタ、コマ、けん玉、たこあげ等	【運動遊び、体育】 縄、平均台、跳び箱、鉄棒、マット、フープ、沈むボール、沈む輪、浮かぶおもちゃ、水鉄砲等	【制作遊び、園工】 ・のり、はさみ、セロテープ、ガムテープ、木工用ボンド、絵の具、ペン、鉛筆、色鉛筆、折り紙、色画用紙、アクリル絵の具、カラーゴリ、不織布、色画用紙、色紙、水のり、いろいろな容器(牛乳パック、缶、プラスチック容器、バケツ等)等	【音遊び、音楽】 スズ、タンブリン、カスタネット、トライアングル、ウッドブロック、グロッケン、シロフォン、小太鼓、大太鼓等							
保幼こ小連携		・避難訓練(東小橋保育所) 学校案内㉔		・プール交流㉔(保幼こ)	東小橋地域盆踊り	・保幼交流 ・保幼訪問㉔	・東小橋小学校 作品展見学 ・保健委員会集会(東小橋幼稚園)	・地域清掃㉔(保幼こ)	・わくわく交流㉔(東小橋幼稚園)	・ドッチボール交流(保幼こ㉔)		
5歳児の育ち												
	Ⅰ期		Ⅱ期		Ⅲ期		Ⅳ期		Ⅴ期			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	各園共通の活動	・春の自然に開いて遊ぶ㉔ ・自然物を使って遊ぶ㉔	・野菜の栽培㉔ ・水遊び㉔ ・色水遊び㉔ ・泡遊び㉔	・七夕遊び㉔ ・プール遊び※㉔	・運動遊び㉔ ・運動会㉔	・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動遊び㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動遊び㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動遊び㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動遊び㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動遊び㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動遊び㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔
就学前施設の遊びや学びの内容	【年間を通して】・リズム遊び・集団遊び(ルールのある遊び)・歌遊び・散歩・異年齢交流 ・集会活動・誕生会・当番活動・避難訓練(火災、地震、津波、不審者対策)・保健指導(歯磨き、熱中症予防、早寝早起き朝ごはん、三色栄養、感染症予防、和式トイレの使い方等)											
	東小橋幼稚園の活動	・段ボール遊び(秘密基地づくり)・ケーキづくり ・入園式㉔ ・始業式㉔	・土粘土㉔ ・お化け屋敷ごっこ ・プール掃除㉔ ・プール開き㉔ ・お話の会㉔	・PTA夏祭り㉔ ・安全な生活について(安パト)㉔ ・花火教室(消防署) ・ふじ組 ・お楽しみ会㉔ ・終業式㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔
東小橋保育所の活動		・参観㉔	・夏祭り㉔ ・野菜の収穫㉔	・運動遊び㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔
キッズファースト	・入園式㉔ ・進級式㉔	・親子遠足(大阪城公園)㉔ ・ファミリーデー制作㉔	・お泊り保育(キッズシアター) ・セミ抽り来 ・夏祭り㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔	・運動会㉔ ・制作活動㉔ ・表現遊び㉔ ・楽器遊び㉔ ・合奏㉔ ・クリスマス会㉔
幼児期の終わるまでに育って欲しい姿	・年長になったことを喜び、自覚や期待をもつ 【健康な心と体】 【自立心】 【道徳性・規範意識の芽生え】 【思考力の芽生え】 【自然との関わり・生命尊重】	・安全な道具の扱い方を知り、素材の特徴に付き、道具を使い分けようとする【健康な心と体】 【自立心】 【道徳性・規範意識の芽生え】 【思考力の芽生え】 【自然との関わり・生命尊重】	・遊びの中で色の違いに気付いたり、工夫して遊んだりしようとする【健康な心と体】 【自立心】 【道徳性・規範意識の芽生え】 【思考力の芽生え】 【自然との関わり・生命尊重】	・伝統行事の意味を知り、身近な素材を使って七夕飾り作りをする【健康な心と体】 【自立心】 【道徳性・規範意識の芽生え】 【思考力の芽生え】 【自然との関わり・生命尊重】	・自分なりに目標をもって取り組もうとする【自立心】 【思考力の芽生え】 【健康な心と体】 【道徳性・規範意識の芽生え】 【思考力の芽生え】 【自然との関わり・生命尊重】	・集めたり、並べたり、分類したりする中で、数量、形等に興味をもつ【健康な心と体】 【自立心】 【道徳性・規範意識の芽生え】 【思考力の芽生え】 【自然との関わり・生命尊重】	・安全な道具の扱い方を知り、素材の特徴に付き、道具を使い分けようとする【健康な心と体】 【自立心】 【道徳性・規範意識の芽生え】 【思考力の芽生え】 【自然との関わり・生命尊重】	・いろいろな楽器を試したり、音の違いを感じたり、鳴らしたりを工夫したりする【健康な心と体】 【自立心】 【道徳性・規範意識の芽生え】 【思考力の芽生え】 【自然との関わり・生命尊重】	・友達と意見を出し合ったり、音のイメージを共有したり、役になりきったりする【健康な心と体】 【自立心】 【道徳性・規範意識の芽生え】 【思考力の芽生え】 【自然との関わり・生命尊重】	・季節の行事や遊びに興味、関心をもち、自分たちでルールを考えたりする【健康な心と体】 【自立心】 【道徳性・規範意識の芽生え】 【思考力の芽生え】 【自然との関わり・生命尊重】	・自然事に興味をもち、気づいたことや感じたことを友達に伝えたり、遊びの中に取り入れる【健康な心と体】 【自立心】 【道徳性・規範意識の芽生え】 【思考力の芽生え】 【自然との関わり・生命尊重】	・就学に向けての活動

※＝資料がある活動

【2年目の取組】

○水遊びの合同保育・授業 6月19日 東小橋幼稚園で実施

<保育指導案の作成>

前年度作成した架け橋プログラムを読み取ることで、各就学前施設でこの時期に水遊びをしていることが分かった。また、小学校の生活科「夏を楽しもう」の生活科単元に合わせて、一緒に交流できる活動内容を考えた。就学前施設・小学校ごとにねらいをたて、幼稚園が中心となり、一つの指導案にまとめた。(下図参照)遊びの場を図で示した指導案を作成したが、小学校の先生にとってこの形式の指導案は初めて見るものだったので、指導案についての話し合いができたことはとても有意義だった。

6月19日(月) 本日の遊び (晴天時)

交流のねらい(めあて)	就学前施設 小学校	・1年生や地域の5歳児に親しみをもち、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ・年下の友だちに優しく接し、一緒に遊ぶことを楽しむ。	・東小橋小学校1年1組(オレンジ) 17名 ・東小橋幼稚園ふじ組(水色) 18名	・東小橋保育所ぞう組(ピンク) 18名 ・キッズファースト保育園そら組(黄緑) 11名
○活動内容	◎・・・遊びのねらい(就学前施設)	・教育的意図をもった働きかけ	10の姿	④遊びごとのめあて(小学校) ☆準備物
9:30 ○荷物を置く(もも組保育室)、名札を付ける。 9:40 ○先生の話を開く・・・各施設の子どもの紹介や今日の遊びの紹介など 10:00 ○好きな遊びをする。	○生き物を見たり触れたりする(ザリガニなど) ◎様々な生き物に興味、関心をもち、触れ合ってみようとする。 ・生き物に親しみをもち、生き物の気持ちになって大切に扱うことに気付けるよう、言葉がけ。 ・知になったことや興味をもったことをすぐに調べられるように、図鑑や絵本を身近に置いておく。 ・気づいたことに教師が共感し、近くにいる友達にも広める機会を作る。 自然との関わり 生命尊重 豊かな感性と表現 ④生き物に親しみをもち、大切に。 ☆水、たらい、飼育ケース、図鑑、絵本 など	○水遊びをする ◎水の心地良さを感じながら、つくったものを使って遊ぶことを楽しむ。 ・浮かべたり、流したりする方法を自分なりに考えられるように、投げかけたり、見守ったりする。 ・水の心地よさを感じ、自分なりに感じたことを言葉にして伝えようとする姿を受け止め、共感する。 思考力の芽生え 言葉による伝え合い ④季節の自然の特徴を生かした遊びを通して夏を味わい、その面白さや不思議さに気付く、友だちと遊びを楽しむ。 ☆水、コンテナ、とけ、たらい、スーパーボール、プリンカップなど	○泡遊びをする ◎泡づくりを楽しむ、感触に気付いたり、ごちそうに見立てて遊んだりする。 ・泡の感触を楽しむように、固形や粉など様々な石けんや道具を準備する。 ・根気よく取り組む姿を認めたり、できたものについて問いかけたりする。 ・道具の使い方を工夫している姿を認め、意欲がわくように言葉がけ。 自立心 思考力の芽生え 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現 ④季節の自然の特徴を生かした遊びを通して夏を味わい、その面白さや不思議さに気付く、友だちと遊びを楽しむ。 ☆水、レモン石鹸、おろしがね、ボール、泡だて器、お玉、スポンジ、おぼん、カップ、机、ふきん、たらいなど	○色水遊びをする ◎色水をジュースに見立てて楽しんだり、色が変化する不思議さを感じたりする。 ・自分のつくりたい色を考えたり、試したりできるように材料や道具などを準備する。 ・友達と一緒にイメージを共有しながら遊ぶ姿を認める。 ・自分の知っていることを友達に教えたり、気づいたことを自分なりの言葉で伝えられるように言葉をつないで、補ったりする。 協同性 思考力の芽生え 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現 ④季節の自然の特徴を生かした遊びを通して夏を味わい、その面白さや不思議さに気付く、友だちと遊びを楽しむ。 ☆水、水槽、コップ、おぼん、クレヨン紙、ひしゃく、机、椅子、テーブルクロス、ふきん、タライ、遊びに使える花びら など
○つくって遊ぶ(きく組保育室) ◎遊びに必要なものを考えたり、自分なりに工夫したりしながらつくっていくことを楽しむ。 ・それぞれの思いが実現できるように、材料を種類分けしたり、修理したりできる場を準備する。 ・素材の特徴や接着方法に気付けるように問いかけたり、考えを受け止めたりする。 ・友達と協力して目や手につくったものや工夫したところなどを周りの子どもたちにも知らせる。 思考力の芽生え 数量や図形認識や文字などへの関心・感 ④遊びに使う物を工夫して作り、友だちと遊びを楽しむ。 ☆プリンカップ、ペットボトル、牛乳パック、スチロールトレイ、セロハンテープ、ビニールテープ、布ガムテープ、油性ペン など	○泥遊びをする ◎全身を使ってのびのびと遊び、砂や水、土や泥の感触を存分に味わう。 ・掘足になり、泥や水、砂の感触を思い切り楽しめるように教師も一緒に遊んで遊ぶ。 ・遊ぶうちに考えたことや友達と協力したいことなどが自分の言葉で言えるように支援をする。 ・ダイナミックに遊ぶ姿を認めながら、周りの友達の様子も伝え、お互いに気持ちよく遊べるように言葉がけ。 積極的な体 自立心 協同性 思考力の芽生え 言葉による伝え合い ④季節の自然の特徴を生かした遊びを通して夏を味わい、その面白さや不思議さに気付く、友だちと遊びを楽しむ。 ☆水、積み木、とけ、じょうろ、スコップ、ます、バケツ、タライ など	★振り返りの担当 ・生き物を見たり触れたりする(保育所の先生1名) ・泡遊び(幼稚園から1名) ・水遊び+つくって遊ぶ(保育所の先生1名、幼稚園から1名) ・色水遊び(保育所の先生1名) ・泥遊び(小学校 谷岡先生)		
10:50 ○話し合い(振り返り)各遊びごと	・子どもの思いを十分に受け止め、共感し、話しやすい雰囲気づくりをする。 ・友達の話に関心をもって聞けるように、聞いている子どもたちに投げかけたり、問いかけたりする。 ・楽しかったことや工夫したことなどを共有できるように、子どもの思いを受け止めたり友達の気づきを知らせたりする。			
11:05 ○片付ける	・片付けやすい環境を整え、最後まで片付けられるよう励ます。			
11:30 ○帰校・帰所する	・各施設へ帰ってから、また一緒に遊ぶことを楽しみにできるように、クラスの友達と今日の遊びを振り返ったり、共有したりする。			

<合同保育・授業当日>

朝、幼稚園に入ってきたときに、どの子どもも「すぐに遊びたい」と心を動かし、意欲がわく環境構成を意識し、場を整えた。「色水遊び」「泡遊び」「つくって遊ぶ」「水遊びをする」「泥遊びをする」「生き物と遊ぶ」の6つの遊びを用意した。

顔合わせのあと、遊びの場を知らせ、自分で好きな遊びを見つけ取り組んだ。環境に慣れている幼稚園児の様子を見ながら試したり、「どうやってするの?」と聞いたりする姿もあり、遊びを通して自然な関わりができた。また、1年生が工夫して遊ぶ姿に刺激を受け、幼児の遊びがどんどん変化していくこともあった。

遊びの後に各遊びの場で振り返りをし、自分なりの言葉で楽しかったことや、発見したことを伝えたり、子ども同士で話をしたりする姿があり、次の活動への意欲につながった。

<色水遊びをする>



<泡遊びをする>



<つくって遊ぶ>



<水遊びをする>



<泥遊びをする>



<生き物と遊ぶ>



<合同保育・授業後>

関係教職員と指導講師を交えて、保育・授業の振り返りを行った。子どもの様子を動画で見ながら、小学校の学びにつながっているのはどのような姿かを話し合った。

泥遊びは地層
や川の流れの
学習につな
がっていきそ
うです。

色水遊びでは、色の変化は図工の混色の学習や絵の
具の活動に。できた色水をカップに移すことは、算
数の数量図形にもつながりますね。

泡遊びの水の量の調整は、理科につ
ながりそうですね。家庭科の洗濯の
単元にもつながるのでは？

就学前施設の先生は、常に、「遊びの中の学び」を意識して保育をしてきた。今回の遊びについて小学校教諭から、具体的にどの教科や単元につながっているのか意見を聞き、遊びの中の学びが明確にイメージできるようになり、就学前施設の先生の新たな学びとなった。

また、指導講師より、就学前施設の遊びが、小学校以降の学びの基礎につながっており、小学校生活が0からのスタートではないという認識をもつことの重要性を学んだ。

「連携」として施設同士や教職員交流の大切さ、「接続」として新たに作成したプログラムを活用して、これから先も続く保幼小交流になるように、東小橋地域の子どもたちの0歳～18歳までの育ちを考えることの大切さを学んだ。

＜保育指導案の作成＞

11月21日(火) 「みんなで見つけた秋で遊ぼう」交流計画案

＜『秋見つけ』合同保育・授業（10月31日）＞

違う施設の先生に自分の見つけたものを自慢し、感じたことを話すなど、子どもたちの姿は普段の

活動同様、他施設の友達に対しても“何をしているのかな？”とアンテナを張っている様子が見られた。より多くの施設が集まれば、子どもたちにとって大きな刺激になることを改めて感じる取組となった。

『秋見つけ』の最後に、1年生から次回の『みんなで見つけた秋で遊ぼう』の“こんなことをして遊ぼうね”という紹介があり、就学前施設の子どもたちは、目をキラキラ輝かせて聞いていた。そして、それぞれの施設でこの取組に向けて活動を行い、実践研究報告会の合同保育・授業へとつながっていった。



<『みんなで見つけた秋で遊ぼう』合同保育・授業

〈11月12日・Bブロック実践研究報告会〉>

1年生の担任から遊びについての説明を受けていると、“早く遊びたい！”と待ちきれない様子が見え、遊びのスタートの合図と同時に、思い思いの場所で遊び始めた。小学校の児童たちは、この日に向けて大きな転がし遊びのおもちゃをつくっていたこともあり、まずは、それで遊んだりおもちゃの説明をしたりしている様子が主に見られた。就学前施設の子どもたちは、小学生の遊びのおもちゃに興味を示したり、普段のように音楽に合わせて楽器屋さんでダンスをしたり、おもちゃ屋さんで遊んだり好きな遊びで楽しんでいた。

しばらく遊んでいると、小学校の児童の中には楽器屋さんでダンスをしている友達を見に来る子どももいたが、転がし遊びにどんどん熱中していき、自分の世界に没頭する姿も見られた。就学前施設の子どもたちも新しいおもちゃをつくり始めるなど、自分のやりたいことに夢中になって遊ぶ姿が見られた。

それぞれの児童が、遊びを通して様々なことを考えたり学んだりしている様子は、各施設の視点から見ても学ぶことが多くあった。ただ、それぞれが好きなことをやっている側面が強く、交流という点ではもう少し工夫していく必要があるように思われた。次年度以降に引き継ぎながら、より良い連携・接続ができるようにしていきたい。



3 Bブロックの研究のまとめ

【2年間の成果】

ブロックテーマである＜豊かな学びや遊びの中から主体的に取組、探求・探究をする子どもを育てる～発達段階を踏まえた学びのバトンをつなぐ架け橋プログラムをそうぞうする～＞を軸に、主に1年目に作成した架け橋プログラムを活用しながら実践をすすめた。就学前施設の子どもたちと、様々な学年の小学生が触れ合える交流を深めていくことができた。

7月に幼稚園で行った4施設の合同授業・保育では就学前施設の子どもたちの遊び（無自覚な学び）が、小学校での自覚的な学びへとつながる、発達の学びの連続性となっていることを共通認識することができた。このことは、合同授業後の交流会でも同じ意見が多数あり、各施設の教職員全体での確認となった。

他にも「お互いを知ろう」と昨年同様、子どもも職員も交流を行った。

○5月＜マット運動の学習会＞

子どもへの指導方法や就学前に体を支える動きを、しっかりと身に付ける大切さや、就学前施設でのリズム遊びや体を動かす遊びが、小学校でのマット運動等へつながる道すじとなっていることを知る良い機会となった。

○7月＜保育所見学＞

0歳児から5歳児の生活の様子を、小学校教諭が夏休みを利用し見学実施。小学校の10分の1位の小さなプールで遊ぶ子どもたちの様子から、プールの経験においても、実際に見ることでの違いを感じ、入学している子どもの理解につながったと感じた。3日目の泡遊びでは、泡遊びからシャボン玉遊びへと子どもたちが主体となって遊びが展開していく様子や、展開することを予測した保育者の環境構成等を見てもらえた。

遊びの中で子どもたちが不思議に思ったことを、探求・探究できるような教育的意図をもった働きかけを大切にする幼児教育を、感じてもらえたのではないかなと思う。

○8月＜幼保プール・水遊び交流＞

各施設の子どもたちがプールの中をグルグル回って渦巻きをつくる「洗濯機遊び」や、得意なことを見せ合い「楽しい～！おもしろい～！こんなできるんや！すごい！」と認め合い、笑顔溢れる交流となった。



＜マット運動・跳び箱講習会＞

その他にも、2年生が学校案内をしてくれたり、4年生が学校紹介の動画を作成し「幼稚園や保育所のみんなにも見せてあげたい」と持ってきてくれたり、いろいろな学年の子どもたちが

関わりをもつ機会となった。

就学前施設の職員は成長の見通し、小学校職員は成長の振り返りをする、良い機会となり意義のある交流となった。

<小学校教師の保育所見学>



<就学前3施設プール交流>



<4年生の学校案内ビデオを視聴>



【今後の課題】

「保育所が近くにあることは知っていたが、どこにあるのか知らなかった」からスタートした交流であったが「めちゃくちゃ交流した」と言えるくらい交流をし、普段から気軽に声をかけあえる良い関係づくりができたことは、とても大きな成果である。また、保護者に保幼こ小の交流の様子をドキュメンテーションで知らせることで、「就学前から小学校と交流してくれると安心する」「様子が知れて就学へのイメージがもてる」という声が聞かれ、就学への安心感につながった。



<ドキュメンテーション>

保護者・子どもたちに毎回大好評！
親子の会話も弾みます。



就学前の子どもたちが日々の生活・遊びの中で主体的に活動することが、就学してからの豊かな学びへとつながっている。そのためにも子どもたちを取り巻く大人たちが「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解し、連携しながら幼児期から児童期の発達を見通し、関わることの大切さをこの取組で感じることができた。

東小橋地区の子どもたちの生活を基に作成した架け橋プログラムは、架け橋期に各就学前施設が工夫して行っている環境構成や遊びが見える化したものとなっている。その中の遊びや教科の分かりづらいものは事例としてあげ、理解してもらえるものとした。

この架け橋プログラムが幼児期から小学校への円滑な接続となるよう、次年度からは小学校のカリキュラムに交流活動を入れ込むこととし、子どもたち一人ひとりの豊かな育ちへとつながっていくよう、新たなスタートとして教職員一同取り組んでいきたい。

○原体験は幼児教育

幼児教育はすべての教育の基礎なので、それを発展させて小学校教育、さらに発展させて中学校教育へとボトムアップの形が好ましい。幼児教育は小学校教育の下請けではないので小学校に付度することなく、たっぷりとごっこ遊びや、砂場遊びをし、学びの基礎を培ってもらいたい。

○保幼小連携について～相互理解・互恵関係が大切～

保幼小連携は細かいところにこだわると前に進まない。今までは、行事交流で精一杯でそれ以上進まないのがこの20～30年だった。今日のような、一緒に授業をつくっていく形が、今、求められている。この取組は、教職員にとっても子どもたちにとっても互恵関係となり、相互理解へとつながる。私自身、小学校教師だったので、子どもたちが幼児教育の豊かな準備で整えられた環境で遊んできたことを知ることができた。小学校につながるなどと意識し過ぎず、むしろ小学校や中学校が「幼児教育でこんな遊びをしてきたのなら、これ使えるなあ」と学び「じゃあちょっと幼稚園（保育園）に行って一緒にやってもいいかな」みたいなことになればよい。

幼児教育でどんな経験をしてきたかを小学校教員が知らなければ、1年生は赤ちゃん扱いとなってしまう、幼児教育の先生から見ると小学校に行ったら、今までできていたことができなくなってしまうというようなことになってしまう。

○架け橋プログラムのこれから

架け橋プログラムが進んでいく中で、例えば中学校が受験偏重で、探求や探究、総合的な学習等をせずに高校受験に向けて一直線では困る。今、そういう中学校に向けた就学準備教育や小学校教育をすることで、子どもが歪んでしまう昭和は、高度成長期であったため、思考させていたら間に合わないで覚えることが中心で、あまり思考させないで詰め込んでいたが、今は違う、思考させる、迷わせる、悩ませる、ドキドキわくわくさせる、見通しをもたせる、チャレンジさせる。自分が選んだ花の種に水をやりすぎて枯らし、泣く、そしてもう一度やり直しをする。というのが今の生活科のやり方で、思考力を高める体験をさせている。

架け橋プログラムを考えていく上で関係者に最も意識して欲しいことは、0歳から18歳までの学びは連続しているということ。大人になった時、一人ひとりに高い資質能力がしっかり育成され、それぞれの Well-being（全ての人たちが良い状態になる）を実現できるようにすること。自分も地域も地球も幸せになること。その為の資質能力は何か、この校区では、どんな子どもに育てて欲しいかを、皆で考えていくことが重要である。

この2年間、最初は幼児教育、小学校教育、互いに分からないことだらけという状況からのスタートで、紆余曲折はあったものの、分からないことを一旦洗いざらい出し、相互理解を深めていったことで、このような成果を出すことができたと思う。一緒に勉強していただいた皆さんに感謝します。

5 参加者のアンケートから

～本日の研究報告会について～

- ・交流にとどまらず、接続をすすめるという視点で、研究をすすめカリキュラムをつくられたことは素晴らしいと感じた。
- ・保幼小の先生方が考え合う機会をもち、お互いの教育・保育を知り、理解しあうということが大切なんだと改めて感じた。
- ・小学校側は幼保と交流をするとなると“招待する”“手本にならないと”という気持ちになってしまうので交流のハードルが高くなっている、という話を聞き、もっと気軽に交流できると子どもたちの小学校への意欲もどんどん生まれていくし、私自身も小学校教育を知りたいと感じた。
- ・保幼小連携が、どこでもあたりまえに取り組んでいける関係であってほしいと強く感じた。

～自校園所の保幼小連携・接続の取組について～

- ・隣接する小学校と施設利用や子ども同士、職員の交流を計画的に実施している。保幼小での交流が通年で行われているため、保幼小は特に親しみを感じている。学校は全体的に温かく迎えてくれる姿勢が見られる。
- ・コロナ禍以降、以前のような交流は戻っていない現状である。
- ・小学校へ制作展への見学をしている。
- ・小学校へ見学に行かせてもらっているが、接続部分は弱いと感じる。
- ・小学校へ児童要録を持っていくときのみの関わりである。